

風水害時の様々なリスク

本市では、これまでに伊勢湾台風や東海豪雨といった大規模な災害を経験しており、災害は決して他人事ではありません。自宅や避難場所だけでなく、職場や学校など様々な場面の災害リスクを理解することが大切です。

市内全域で様々な危険性があります！

浸水の長期化

伊勢湾台風では、海抜ゼロメートル地帯を中心に市域の広範囲が浸水し、市域の排水完了までに約2か月を要しました。



写真: 伊勢湾台風による浸水状況。伊勢湾台風による浸水状況(伊勢市)。

水害と風害の危険性

高潮等による浸水と風による被害が重なるなど、建物の上階へ避難しても屋根等が壊れ、安全を確保できなくなる可能性があります。



写真: 高潮による浸水と風による被害。伊勢湾台風による浸水状況(伊勢市)。

洪水と内水氾濫による浸水

洪水の危険性が高まっている場合、洪水よりも先に内水氾濫が発生する可能性があります。また、河川堤防が決壊すると、河川から近い地域では急激に浸水し、河川から遠い地域では遅れて浸水が始まります。

地下施設への浸水

地下街や地下室、地下鉄等は、地上が浸水すると一気に水が流れ込み、階段は上れず、水圧で扉が開かなくなるおそれがあります。そのため、避難指示等が出たらすぐに地上へ避難しましょう。

市域のハザード分布(区別)



市域のハザード分布(区別)の地図。市域のハザード分布(区別)の地図。

突風による災害

突風は豪雨の際にも発生し、積乱雲に伴う上昇気流によって発生する「竜巻」や積乱雲から冷たい空気が強く吹き降り、強烈な風を吹き出して広がる「ダウンバースト」などがあります。

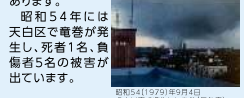


写真: 突風による災害。昭和54年(1959年)伊勢湾台風による浸水状況(伊勢市)。

丘陵地に鉄砲水

昭和58年の台風がもたらした突発的な集中豪雨では、名東区の丘陵地で、道路にあふれた水が鉄砲水となって坂道を下り、下校の子供が犠牲になりました。



写真: 丘陵地に鉄砲水。昭和58年(1983年)伊勢湾台風による浸水状況(伊勢市)。

土砂災害の危険性

市東部の各地で土砂災害が想定されています。過去には市内で斜面崩壊が発生し、犠牲者も出ています。



様々な地域でライフラインが停止

ライフラインの供給施設等が被災した場合、その供給地域等の全体に影響が及びます。そのため、浸水しない地域でもライフラインが停止する可能性があります。

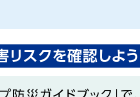


写真: 様々な地域でライフラインが停止。昭和54年(1959年)伊勢湾台風による浸水状況(伊勢市)。

日頃からの備え

風水害は多くの場合、気象情報や避難情報等から事前に災害の切迫度を把握できるため、事前に適切な防災行動を取ることで被害を減らすことができます。災害リスクを理解し、事前に取るべき行動や備えをしておくことが大切です。

1 逃げ遅れ等により被災する可能性

→マイ・タイムラインを作成しよう！

「なごやハザードマップ防災ガイドブック」で気象や避難等の情報について理解し、「マイ・タイムライン」を作成しておくことで、迅速な避難につなげましょう。

また、名古屋市防災アプリの気象警報等の通知やマイ・タイムライン作成機能等も活用しましょう。



マイ・タイムラインの作成イメージ。マイ・タイムラインの作成イメージ。

2 長期浸水やライフライン停止のおそれ

→長期の避難生活を想定して備えよう！

浸水地域内外に関わらず、備蓄物資は7日分程度、家族の人数も考慮して用意し、想定外の出来事に備えましょう。



3 帰宅が困難になるおそれ

→災害のおそれのある場合は外出を控えよう！

やむを得ず外出した場合でも、電車やバスが運行を見合わせたら無理に帰ろうとせず、職場や学校に留まるなどの対応が重要です。

外出先に留められない場合は、宿泊施設など、安全に滞在できる場所があるかを確認しておきましょう。



災害時の情報収集

8 ライフライン停止や交通支障が発生するおそれ

→各機関のホームページを確認しよう！

災害時には、各機関のホームページでライフライン供給停止状況、道路交通情報、鉄道運休情報等を確認することができます。



9 通信途絶等により情報が伝わらないおそれ

→【0000JAPAN】を活用しよう！

災害時に開設されるフリーWi-Fi【0000JAPAN】に接続することで、災害情報の収集や安否の確認ができます。

なお、セキュリティ対策が講じられていないため、個人情報等の入力は避けましょう。



災害時に開設されるフリーWi-Fi【0000JAPAN】の活用イメージ。フリーWi-Fi【0000JAPAN】の活用イメージ。

防 「なごやハザードマップ防災ガイドブック」に詳しく掲載

2 避難場所が大混雑する可能性

→多様な避難行動を考えておこう！

避難生活を想定し、安全な親戚・友人宅、ホテル等への避難(分散避難)なども検討しておきましょう。



3 いつもの病院が利用できないおそれ

→薬も備えておこう！

災害時に備え、持病の薬は3日分(できれば7日分)準備しておきましょう。また、避難時はお薬手帳も持参しましょう。



5 停電して冷蔵庫が使えないおそれ

→熱中症に注意しよう！

夏場の発災時に冷蔵庫が使えなくなることを想定し、日頃から熱中症に備えることも大切です。

・塩分補給、水分補給を行う
・携帯型扇風機やうちわで体を涼しく保つ など



7 浸水した家電製品による通電火災のおそれ

→避難時や停電時は通電火災に備えよう！

浸水した家電製品による通電火災の対策が必要です。

・避難時にブレーカーを落とす
・家電製品のスイッチを切り、コンセントからプラグを抜く
・浸水した家電製品は使わない など



災害後に必要な対応

10 自宅、職場等において浸水が発生

→被害状況を写真で撮影し記録に残そう！

浸水被害等にあった場合、電気証明書を取得することで様々な支援を受けられます。各種被災者支援制度について、事前に確認しておきましょう。



11 廃棄物が混合状態で排出され悪臭や交通障害が発生

→災害廃棄物は仮置場に分別して持ち込もう！

家具等の大量の廃棄物を路上に出すと、道路の通行ができなくなり、応急対策活動の支障になります。災害廃棄物は、市が開設する仮置場に持ち込みましょう。また、日頃から不用品は処分するようにしましょう。

風水害時 あなたの身にせまる
危機的な状況をイメージできていますか？

想定し得る最大規模の風水害リスクシナリオ

風水害リスクシナリオは、台風や豪雨による大規模な災害発生時に想定される被害や状況等を時系列でまとめたものです。災害時のリスクを適切に理解し、事前に取るべき行動や備えをしておくことで、自らの命を守りましょう。

【発行】名古屋市長官公署 防災危機管理課 TEL:052-972-4252

令和6年3月

時間

3日前

1日前

2時間前

6時間前

発災

2時間後

1日後

3日後

1週間後

雨・風・河川の状況など

雨の降り方

総降雨量10～20mm

継続雨量20～50mm

総降雨量50mm～

風の吹き方

平均風速15～20m/s

平均風速20～25m/s

平均風速25m/s～

平均風速15m/s以上の平均値

気象情報／防災情報

- ▼早期注意情報(警報発の可能性)
- ▼気象庁発表表(5日間予報)
- ▼気象庁による緊急気象(特別警報級の気象)
- ▼気象庁と地方整備局・運輸局による合議による緊急(特別警報級の気象)
- ▼警報や注意報に先立つ注意の要記
- ▼気象注意発表表(大雨、雷、波浪、洪水等)

名古屋市など

- ▼気象情報や防災情報の収集
- ▼災害警報本部
- ▼市域に必要な情報に即時対応
- ▼不要不急の外出制限の呼びかけ
- ▼市内対策本部
- ▼災害対応地区本部(地域の対応拠点)
- ▼警戒レベル3 高齢者等避難(高齢)

▼警戒(暴風・高潮)

▼特別警報(暴風・高潮・波浪)

▼警報(大雨・洪水)

- ▼電害注意情報

▼暴風域に入る

▼顕著な大雨に関する気象情報

- ▼土砂災害警戒情報
- ▼洪水予報(氾濫注意・氾濫危険)

▼台風上陸

▼記録的短時間大雨情報

- ▼特別警報(大雨)
- ▼氾濫発生情報(洪水・高潮)

▼記録的短時間大雨情報

- ▼堤防決壊等に伴う緊急警報の発表基準(発表の基準とする水位・雨量等)の引き下げ

▼特別警報から警報への切り替え

- ▼土砂災害警戒情報の解除

▼気象警報 注意報解除

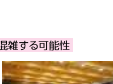
- ▼堤防決壊等に伴う緊急警報の発表基準(発表の基準とする水位・雨量等)の引き下げ

▼災害発生初への対応

▼ボランティアとの連携・受入れ

- ▼各種被災者支援の広報
- ▼家屋被害調査開始
- ▼罹災証明書等の受付開始

甚大な被害により被害状況把握が難航し、救助・救出や応急復旧、被災者支援等が円滑に進まず長期化するおそれ

時間	指定緊急避難場所/指定避難所	自宅等	その他(学校・職場・外出先など)
3日前	▼指定緊急避難場所の開設(自主避難者の受け入れ) 	▼テレビ等で台風等の気象情報が流れる 	▼テレビ等で台風等の気象情報が流れる ▼休校や休業の検討 
1日前	▼指定緊急避難場所の開設(避難準備に基く避難) 	▼市からの高齢者等避難(テレビ、ラジオ、HP、SNS、緊急速報「高潮、防災ミニカー」伝達等)(高潮) ▼市からの避難指示(高潮)	▼休校や休業の可能性 ▼授業等がある場合、生徒は校内で待機
12時間前	2 避難場所が大混雑する可能性 	■電線等の突風による窓ガラス・屋根等の破損 ■受けられないほどの強風と飛来物により避難が困難になる ■気の影響で停電、通信不通等が発生	■多くの避難者の経験により決断が発生 ■物資の買い溜め等によりスーパー等、高値が定着する
6時間前		■土砂災害の危険性が高まる ■ため池決壊の可能性が高まる ▼市からの避難指示(洪水・土砂) ▼避難がされた場合、移動中に被災する可能性	3 鉄道の手遅れにより駅等で滞留者が発生 ※場所により被災者になる可能性
発災	10 浸水域内の指定避難所や自宅、職場、地下街において浸水が発生 11 逃げ遅れ等により浸水や土砂崩れ等に巻き込まれ被災する可能性 12 浸水域やその付近等においてライフラインが使用できない可能性 	4 浸水域やその付近等においてライフラインが使用できない可能性 5 携帯電話等の通信機器が使用できず救助要請ができない可能性 	6 通信途絶等が十分に伝わらず救助要請 7 携帯電話やパナールーチェ等により、駅との連絡や情報収集等が困難になる 
2時間後	8 被害の収まった地域から多くの被災者が集まる 9 停電地域では、テレビ等による情報収集や照明、空調等が使用できない 	13 強風や移動が困難な状況が継続 14 浸水域内の多くで浸水が継続 	15 県内で浸水・停電・断水等が継続すると、医療サービスを受けられない 16 スーパー等の休業により、物資や食料の調達に困難になる 
1日後	17 慣れない生活環境により、高齢者や既往症を患った者が悪化する 	18 ライフラインが使用できず熱中症や生活不活発病等が増加 19 浸水や停電により、マンションのエレベーターが使用できなくなる 20 長期間浸水する地域では、上階に避難した者も物資が底を尽きる 21 渾水の長期化等により、自宅等での生活が困難な者が指定避難所へ 22 浸水した家電製品により通電火災が発生する可能性 23 大きな被害により、救助・救出できない可能性	24 浸水解消地域では片付け作業が始まり、廃棄物が公園や道路等に混合状態と排出され、悪臭や交通障害が生じる可能性がある 
1週間後	24 プライバシーやペットなどの生活ルールに関するトラブルが増加 		▼学校・職場では片付けや手拭き等に膨大な時間を要し、前回の困難な状況が継続

▼ 防災・対応等

▼ 防災設備

▼ 台風・記録

▼ リスク(影響・被害等)

▼ 実際の項目番号に対応

文字が読めばいい
なんでも

よりイメージできるよう

動画

作りました

想定される
最大被害の
発生率について

お知らせ

ライフライン(上下水道・電気・通信・ガス)

▼ 気象情報や防災情報の収集

▼ 体制状況について情報共有

▼ 関連企業への連絡、状況把握

▼ 応急復旧拠点準備



▼ 応急活動に向けた応援体制の確保

▼ 自衛水防活動の実施

▼ 風の影響で一部地域で停電、通信不通等が発生

▼ 供給停止状況等の広報



▼ 浸水が解消された地域での復旧活動を継続

※建物自体が被災した場合やライフライン供給施設等が大きき被災した場合、復旧に長期を要する可能性

道路・鉄道

▼ 気象情報や防災情報の収集

▼ 鉄道等の「計画運休の可能性」を発表

▼ 関係機関との連携体制確保

▼ 運転計画発表(計画運休)を発表

▼ 市街地の実態、運行状況の情報提供

▼ 市街活動に向けた応援体制の確保

▼ 自衛水防活動の実施

▼ 網状が破損する等の道路損壊が発生

▼ 樹木等による通行止めが発生

▼ 道路交差情報等の広報

▼ アンダーパスや低地で道路が冠水

8 道路が一部通行止め







8 道路や鉄道が広範囲に浸水

▼ 道路管理者・鉄道事業者による被害状況の把握

▼ 停電が発生している地域では信号が停止

▼ 浸水が解消された道路内に、放置された被災車や災害ごみ等が散乱

▼ 浸水解消地域から復旧活動

▼ 道路区間の指定・車両の移動

▼ 通行可能な道路に車が集中し、市内各所で渋滞が発生

▼ 地下鉄では大量の水が地下に流入し、浸水が解消されるまで復旧対応が困難

▼ 鉄道の運行停止に伴う代替輸送の実施に係る広報

▼ 浸水が解消された地域での復旧活動を継続

▼ 鉄道 復旧完了区間から運行再開

▼ 治道 路境間に交差難行解除











ライフラインや道路、鉄道の甚大な被害により、長期的に身の回りの様々な生活環境に大きな支障が生じるおそれ